

自然保育研究の“いま”を知る



2025年12月7日（日）15:00～16:30

講師：柴田千賀子会員（仙台大学）

テーマ：子どものウェルビーイングを育む自然保育
－ランダム化比較試験による生理学的検証－

【プロフィール】

柴田 千賀子（しばたちかこ）

仙台大学 教授。

専門はEarly childhood education and care、比較保育、自然保育。

福島大学人間発達文化研究科教職教育専攻修了 修士（教育学）。

東北大学医学系研究科博士課程医科学専攻修了 博士（医学）。

仙台大学 国際交流センター長。



【参加費と申し込み方法】

日本自然保育学会会員（一般会員／学生・実践者会員）無料

＊団体会員は一団体につき10名まで無料で視聴可能

＊会員はPeatixからではなく、会員専用参加申込フォームからお申し込みください（学会事務局よりメルマガでお知らせします）。

非会員1,000円。こちらのページからお申し込みください。非会員用申込QRコード→

<https://shizenhoikukouza2.peatix.com>



【お問い合わせ先】

shizenhoikukouza@gmail.com 日本自然保育学会 実践・研究推進委員会 山口・酒井

【オンラインセミナーのテーマ】

子どものウェルビーイングを育む自然保育 -ランダム化比較試験による生理学的検証-

自然の中での体験が、子どものこころとからだにどのような良い変化をもたらすのか。2022年に、130名の5～6歳児を対象にランダム化比較試験を実施し、幼児期の自然体験がストレスに及ぼす影響を、脳と腸の相関やコルチゾールなどの生理学的指標から検証しました。2025年に発表した研究成果には、国内外の保育者、研究者の皆様からも関心をお寄せいただいています。科学的な視点を通して、自然保育が子どものウェルビーイングを育む意義と可能性について、学会の皆さまと共に考える機会となれば幸いです。

この研究は、JSPS科研費「幼児のストレスに及ぼす自然保育の生理学的効果に関する研究」（基盤研究（C）課題番号21K02331）、JSPS科研費「自然保育が幼少期ストレスに及ぼす影響に関する研究：腸内細菌叢を中心に」（基盤研究（C）課題番号24K05860）の助成を受けたものです。

【主要論文】

- ・ 白石 昌子, 柴田 卓, 柴田千賀子 (2016) 「『森のようちえん』への参加が学生に及ぼす教育的効果：子ども観・自然観の変化を中心に」福島大学人間発達文化学類論集
- ・ 柴田 千賀子 (2018) 「フィンランドにおける包括的子育て支援：福祉ネウボラと『KEINU』」モデル」仙台大学紀要 49(2)
- ・ 柴田卓, 柴田千賀子 (2020) 「地域の資源を活かした自然保育に関する研究」郡山女子大学紀要 57
- ・ 柴田卓, 柴田千賀子 (2023) 「自然を活かした保育活動を促す教材開発の試み-地域資源の活用とSTEAM教育に着目して-」 郡山女子大学紀要 59
- ・ 柴田 卓, 柴田 千賀子 (2025) 「デンマークの保育実践におけるSTEAM教育と自然保育との関連に関する一考察 -カリキュラムテーマ『科学』に関する保育実践と教材に着目して-」 自然保育学研究 7(1)
- ・ Chikako Shibata, Tomohiko Muratsubaki, Suguru Shibata, Emiko Aizawa, Satoshi Watanabe, Motoyori Kanazawa, Shin Fukudo. A randomized controlled trial of environmental richness on gastrointestinal symptoms, salivary cortisol, and gut microbiota in early childhood. Scientific reports: 15(1), 2025.

